

自然配植の考えに基づく
県民型自然再生法について

地域性苗木を使って

八戸市森林組合

田子町の状況

- 人口の減少と高齢化
(農業従事者の減少)
- 主な産業は農業
(ニンニク・葉タバコ・稲作)
- 観光資源
たぷこぷ創造村・みろくの滝

青森県・岩手県堺不法投棄現場の状況

- 主要都市から遠い
八戸市から1時間30分、二戸市から1時間10分程度
- 田子町の中でも山奥
- 人家が少ない
- 傾斜面ではあるが、遠目から見えにくい



産廃処理場として立地条件が良い

青森県と田子町の将来予想？

人口の減少

- 町の若者が減少
- 高齢者の増加

予算の減少

- 人口が減少する事により税収も減少
- 福祉等の予算増に伴う予算の偏り

人材の減少

- 人口の減少による人材のハイの減少
- 有能な人材の流出(他の町・他の県)

様々な物事が縮小に向い始めている

人口・予算・人材の減少



田子町だけでなく、青森県のほとんどの市町村も似た状態である。

このような状況で何ができるのか

- 産業の為の開放
- 観光施設の開発
- 将来へ記録や記憶の継承する建物の建築
- 自然環境林の造成

毎年予算を出して維持しなくてはならないもの
するか？

逆に収益が上がる(貸与も含め)ものにする
か？

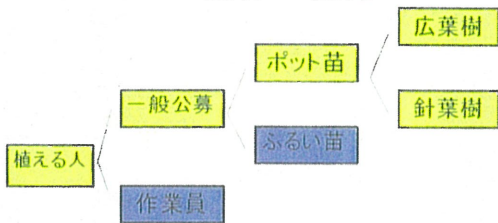
利用を考える1

- 農業・畜産
産業廃棄物の処分のイメージが強い ×
- リサイクル施設
市街地に近い方が利用しやすい ×
- 一般・産廃処分場
そのまま施設が有効利用出来て、収益が上がるが、町民感情を悪化させる可能性がある ×
- 観光・芸術施設
将来的に人口が少なくなる。趣味が多様化しており、集客能力が低下する。立地条件が悪い。 ×

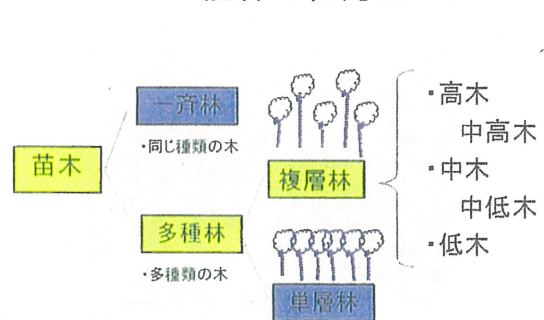
利用を考える2

- 大規模不法産廃場を後世に伝える建物
絶対必要だが、管理や施設の維持を考えると、役場の一部を借りる。又は、観光施設(創造村)に建てる。◎だが、処分場内には施設の維持管理や、来客(観光客や遺足)が見込めない。△
- 公園化
維持費が掛かる。来客が見込めない。 ×
- 施設の貸与
場所を他の団体や会社等に利用させることで、収入が入る可能性がある。しかし、実際に利用されるかは不明。応募がない場合や誘致に失敗した場合は、逆に青森県の姿勢が問われる。 ?
- 森林の再生化
土砂の流失、防備、二酸化炭素の吸収源、野生動物の住み家、将来的に成長すると、様々な利用が考えられる。継続した予算の必要性が無い。 ◎

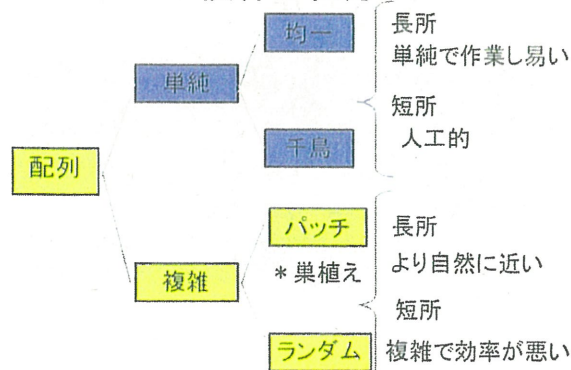
植林の仕方1



植林の仕方2



植林の仕方3

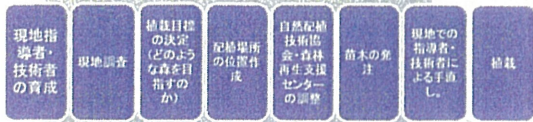


植林の仕方まとめ

- 作業は一般公募で大人数。
- 素人でも植林しやすいポット苗木。
- 針葉樹でも、広葉樹でも植林する。
- 様々な特徴を持った木を植える。
- 人工的な植林よりも、より自然に近い形で、それぞれの樹形や特性に合わせて植える。(効率だけを求めない)

自然配植技術

自然配植技術の実践



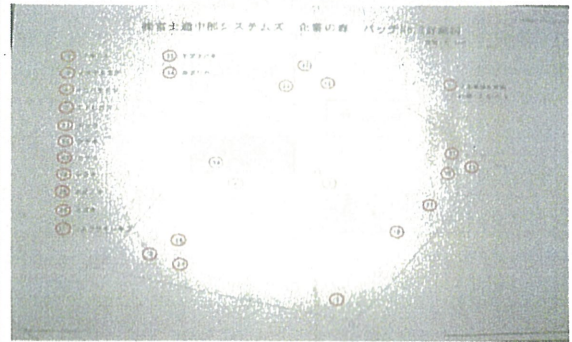
自然配植技術の講習会の様子1



自然配植技術の講習会の様子2



配植場所の位置作成



現地での指導者・技術者による手直し



植林作業状況



地域性苗木とは

- 広葉樹のポット苗木は数が少ないし、種苗法での移動の制限はない。
- ↓
- しかし、自然界の中では混ざり合う可能性がある。遺伝子レベルで攪乱する。
- ↓
- 出来る限り、地域で育つ木の種等を使って育てる。地産地植の考え。

今までの植林方法を反省して、
行きついた先が自然配植技術だった。

- ✓ なぜその位置に配植するのかを深く考える。また、技術者同士で検討する。土壌、菌類、樹形、水、光、温度等高度な知識と経験が必要。日々の山を見る見方が大きく変わる。
- ✓ 美的なセンスを兼ね備える。造園的な発想も持ち合わせる。
- ✓ 目的が異なると、柔軟に設計を変えられる。捉われ過ぎない。
- ✓ 地域性苗木を重要視している。
- ✓ 地域の生活スタイル、地域経済についても考える。そして地域の技術者を養成する。
- ...etc

青森・岩手県境不法投棄現場環境再生の提案

資源循環型による エコアグリカルチャー

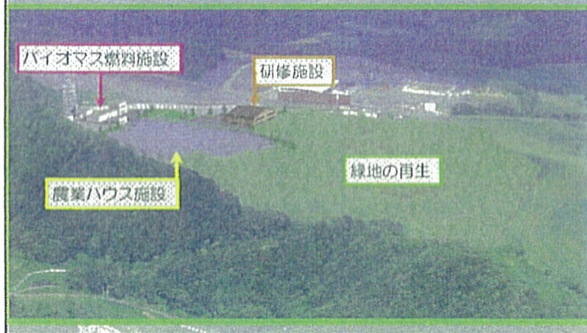
提案者 東急建設株式会社

プレゼンテーションの構成

1. 提案の概要について
2. テーマ選定の理由について
3. テーマ実現のための基本プラン
4. 期待される効果について

提案の概要について

⑤ 土地利用計画について



田子町の取組み (テーマ選定理由)

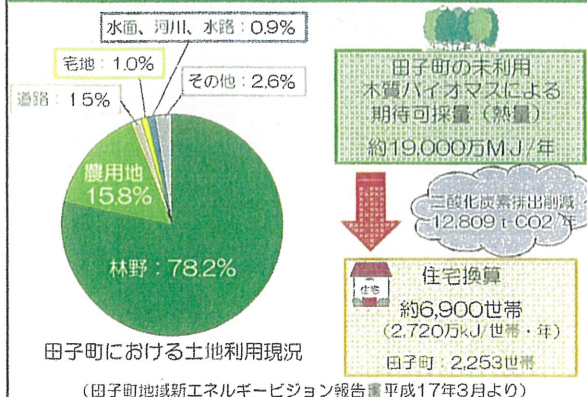
- ① 環境再生にバイオマスエネルギーを選んだ背景について

平成17年3月
「田子町地域新エネルギービジョン」報告書

平成18年3月
「田子町地域新エネルギービジョン
(重点テーマに係る詳細ビジョン)」報告書

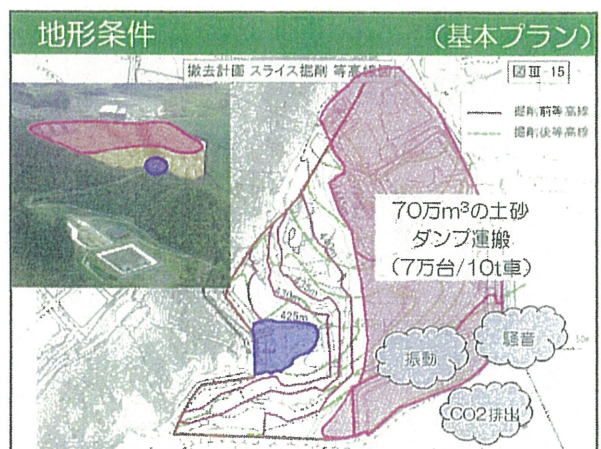
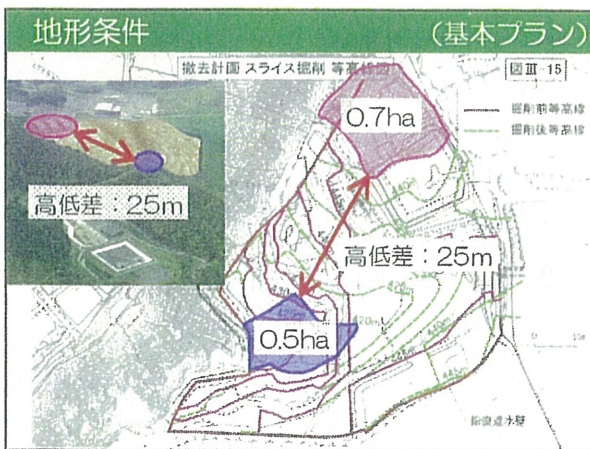
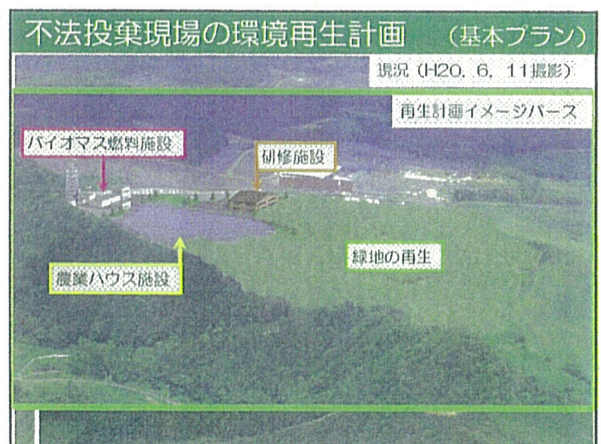
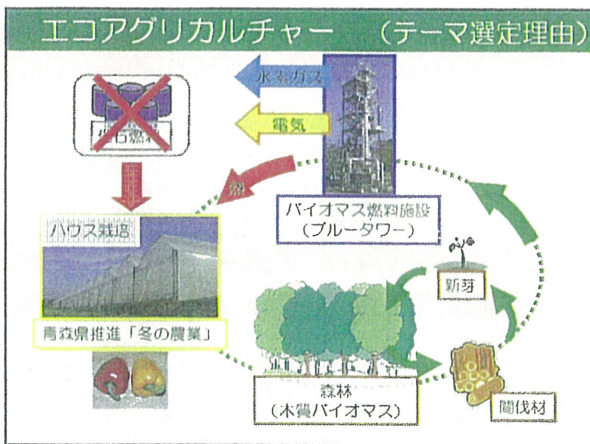
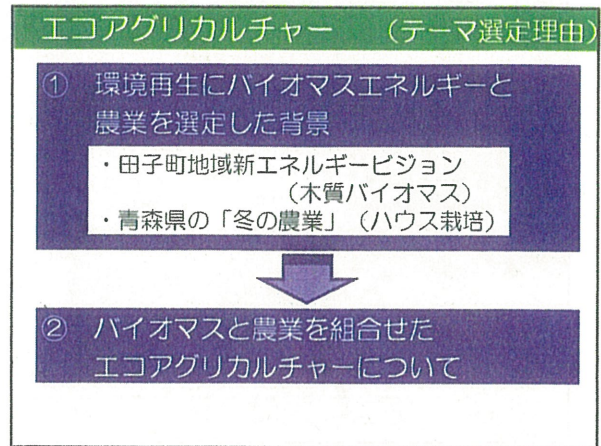
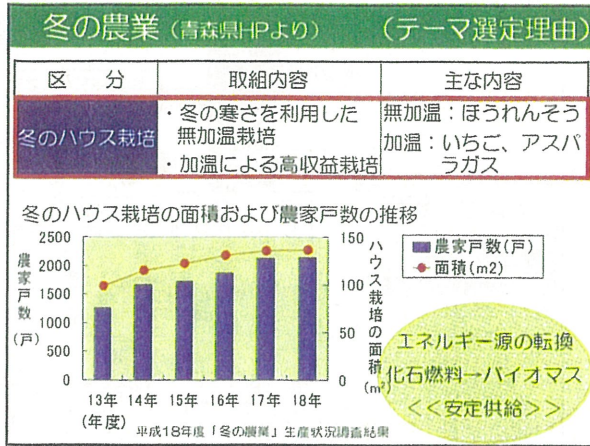
平成21年2月6日提出
(農林水産省公表：3月31日)
田子町バイオマスタウン構想

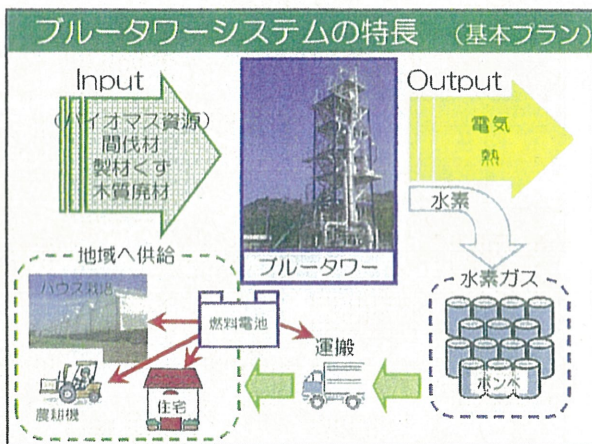
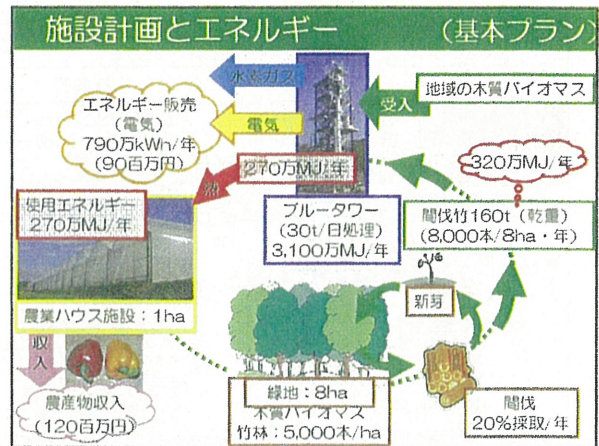
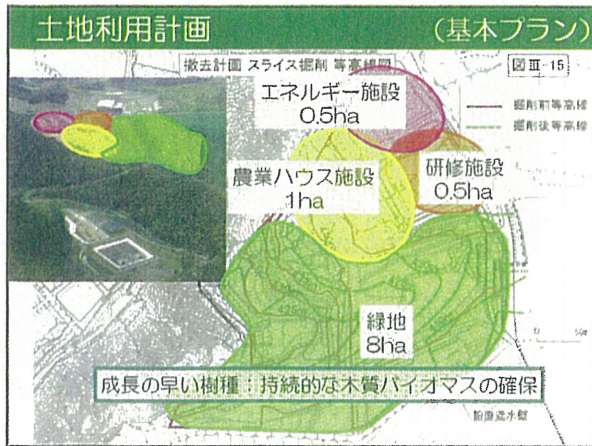
田子町のバイオマス (テーマ選定理由)



冬の農業 (青森県HPより) (テーマ選定理由)

区分	取組内容	主な内容
冬のハウス栽培	・冬の寒さを利用した無加温栽培 ・加温による高収益栽培	無加温：ほうれんそう 加温：いちご、アスパラガス
冬の路地栽培	・冬の寒さや雪により付加価値を高めた露地栽培	雪中にんじん
雪などを利用した貯蔵	・雪室による野菜や果樹の保存	雪室りんご
冬の農産加工	・冬の寒さや労働力を活用した加工品づくり	寒だいこん、干し餅
冬のグリーン・ツーリズム	・関連産業などと連携した冬の農業体験など	観光いちご園、どぶろく提供





概算事業費

支出 (初期投資)	1,825百万円	(※1の小計：3,550百万円)
農業ハウス施設建設費	(※1) 250百万円	1.0 (ha) 農業ハウス 水耕栽培システム、暖房施設等
造成費	(※1) 500百万円	1.5 (ha) 農業ハウスは基礎状に設置
ブルータワー建設費	(※1) 2,600百万円	30t/日処理
研修施設建設費	(※1) 200百万円	敷地面積0.5ha
再生緑地	50百万円	8 (ha)
支出 (年間)	100百万円	
ランニングコスト	100百万円	人件費、苗代、肥料代等
収入 (年間)	210百万円	
農産物販売収入	120百万円	イチゴ、パプリカ等で算定
エネルギーの販売	90百万円	790万kWh/年、11円/kWh

※1：施設建設費等は「バイオマスタウン構想」等の補助金により1/2にしました。

事業採算性は、ほぼ10年で減価償却可能

期待される効果

- ・ 新たな雇用の確保が見込める。
- ・ 青森県が推進する「冬の農業」に貢献できる。
- ・ CO2削減、環境に貢献する地域としてPR効果が見込める。
- ・ 循環型地域社会を実践する町としてイメージ・知名度アップが期待できる。

期待される効果

- ・ 新規産業の誘致に伴う町の税収入の増加が見込める。
- ・ イメージ・知名度のアップによる波及効果として、観光、移住、グリーン・ツーリズムが期待できる。
- ・ 施設を利用した農業従事者の育成が可能である。